

平成29年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

個体観察と情報共有が肉用牛繁殖経営の高収益を実現

○氏名又は名称 株式会社 玉牧場(代表 久留須 茂)

○所在地 鹿児島県霧島市

○出品財 経営(肉用牛繁殖)

○受賞理由

・地域の概要

霧島市は、鹿児島県の中央部に位置し、温暖多雨な気候であるが、温暖な南部の平野部と冷涼な中・北部の中山間地域では地域差が大きい。肉用牛飼養農家は527戸で13,070頭を飼養している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

久留須氏が就農した昭和54年当時、繁殖経営として黒毛和種繁殖牛10頭と家畜人工授精所として種雄牛2頭を飼養していたが、計画的な規模拡大に取り組み、現在は、繁殖牛190頭、種雄牛3頭を飼養している。

飼養管理では、平均分娩間隔12.1ヵ月(全国13.3ヵ月)、子牛損耗率0.6%(県2.3%)と高い繁殖、ほ育・育成技術を有するとともに、稲発酵粗飼料利用による飼料費の削減を実現し、所得率42.3%と高収益・低コスト生産化が実績として現れている。

・受賞者の特色

(1) 個体観察によるストレスのない飼養管理技術

頭絡の装着や耳標へのカラーテープの貼付により、健康状態や種付回数の識別と情報共有を行い、個体観察の強化を図ることで、子牛の家畜市場への出荷月齢の早期化や高い繁殖率が達成されている。

(2) 飼料生産基盤拡大と稲発酵粗飼料利用による飼料費の削減

水田裏作等によるイタリアンライグラス等の飼料作物作付面積を拡大したほか、飼料稲の契約栽培による稲発酵粗飼料の生産拡大への取組により、飼料自給率が92%(繁殖牛では100%)と向上したことで、飼料費が削減されている。

(3) 女性の活躍

久留須氏の妻は、女性農業経営士の認定を受けており、女性の視点による研修会の開催や消費者との交流、後継者との意見交換会を活発に行い、女性が活躍できる場としての畜産を幅広く伝えている。

・普及性と今後の発展方向

上述のような飼養管理技術への先進的な取組は、地域生産者の模範となっている。また、人工授精業務で地域生産者を訪問した際は、飼養管理に関する指導なども行っており、地域からの信頼も厚い。今後は、肥育部門への取組なども計画しており、さらなる経営の拡大が期待できる。